

大津波を生き抜いた
黒森神楽 [国指定重要無形民俗文化財] と
三陸の《現在》を描くドキュメンタリー

春はもうすぐなのす 神楽が来れば、

昔々…

峠を越え、山から山、

海から海へ、一夜の

宿を乞いながら

旅をする神楽衆が

おりました——

ある時大津波があつて、

海辺が大変な目に

遭いました。神楽衆は

人々を慰めようと

村々を訪ねました。

廻り神楽

かぐら

出演：黒森神楽保存会
共同監督：大澤未来・遠藤 協 [兼プロデューサー]
製作：ヴィジュアルフォークロア
助成：文化庁文化芸術振興費補助金
支援：一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟
機材協力：小輝日文

2017年 / 日本 / 94分
<https://www.mawarikagura.com/>
@mawarikagura



大津波のあとも
祈りの舞を続ける黒森神楽

春になると権現様のお供をして岩手県の沿岸を巡る「廻り神楽」。黒森神楽は三〇年以上、南北一五〇キロにおよぶ地域を巡り続けてきた。海とともに生きる三陸の人々は、日々の生活や人生の節目の祈りを神楽に託してきた。これほど海辺の人々の人生に寄り添ってきた神楽は他にない。海の安全、大漁祈願、家の安寧、子や孫の健やかな成長を舞い祈り、亡き人には神楽念仏を捧げる。この映画は、東日本大震災の後も途切れることなく続く黒森神楽の巡行に密着。震災から六年を迎えて、なお激しい変貌と困難が続く三陸沿岸の《現在》と《人々》を描く。

生きている人も訪ねます。死んだ人も訪ねます。黒森神楽衆は、今日も海辺の村々を廻っています。



神楽を次の世代に
引き継ぐのが私の使命
この映画はそれを
後押ししてくれる
松本文雄 [黒森神楽保存会代表]

黒森神楽は陸中沿岸の
人々の魂の抛り處
震災後もその生きざまに
寄り添い、支え続ける
神田より子 [民俗学者]

東北に根づく芸能には
困難から立ち上がる
魂が込められている
二代目高橋竹山
[津軽三味線奏者]

ATP若手映画プロジェクト第5回支援作品 **廻り神楽**
2017年/日本/94分/ <https://www.mawarikagura.com/>

語り：一城みゆ希 昔話朗読：森田美樹子
構成：北村皆雄・遠藤 協 撮影：明石太郎・戸谷健吾 ドローン撮影：古館裕三
撮影助手・ステル：井田裕基 照明：工藤和雄 録音・効果：齋藤恒夫 サウンドデザイン：森永泰弘
整音：飯森雅允 編集：田中藍子 制作デスク：山上亜紀・渡邊有子
題字デザイン：杉浦康平+新保韻香 宣伝美術：島田 薫
共同監督：大澤未来・遠藤 協[兼プロデューサー] ラグジュアリー：三浦庸子・北村皆雄
製作：ヴィジュアルフォークロア 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-12-12-3F
TEL: 03-3352-2291 FAX: 03-3352-2293 E-mail: info@vfo.co.jp

三陸の信仰とたくましさを描く
共同監督の大澤未来と遠藤協は、2012年から岩手県宮古市の「震災の記憶伝承事業」に参加し、被災地に通い続けて来た。初監督作品となる本作で、三陸の豊かな信仰、伝説や昔話を通して、度重なる大津波を生き抜いてきた、たくましさの源を探る。なぜ人々はこの地に生き続けるのだろうか？

川村学園女子大学日本文化学科公開講座
映画「廻り神楽」上映会&アフタートーク
(遠藤協監督・伊藤純先生)

2022年11月20日(日) 13:30~16:00
会場：川村学園女子大学14号館大教室
申込不要&入場無料